

# ～子育て家庭・健全育成へ積極的支援を～

# 子ども・子育て支援事業

## がスタートします！

国は、全ての子どもに良質な生育環境を保障し、子ども・子育て世帯を社会全体で保障することを目的とした「子ども・子育て支援法」を制定し、平成27年4月1日から施行されています。町でも、昨年9月から町子ども・子育て審議会（会長：梶野美国小学校長）の6回に及ぶ審議を経て、国の基本指針に即した5年を1期とする「**積丹町子ども・子育て支援事業計画**」を策定しました。

町が今後進めていく、子ども・子育て施策の方向性や目標等を定めた同計画の概要について紹介します。

### 基本理念

**青い海と緑の大地で 子どもの笑顔が輝く町 積丹**  
～育てよう 地域の力で～

子育てを支援していくためには、子どもの健やかな成長のために保護者や家庭が、安心して子どもを生み、育てることのできる環境づくりが重要です。

そのためには、保育サービスをはじめとする子育て支援の整備とともに、町が子育て支援サービスや健全育成に向けた取組を総合的に推進する必要があります。

町では上記の基本理念に沿って、次の4つの基本目標を掲げ、多様な子育て支援対策の実現に家庭や地域とともに取り組みます。



### 基本目標1：子どもと子育て家庭が健やかにすごせるための支援と健康づくり

すべての家庭が安心して子育てができるよう相談・情報提供体制の充実をはかり、子育て支援サポートの環境整備を目指すとともに、子どもと子育て家庭の心身の健康づくりを推進します。

### 基本目標2：子どもと子育て家庭を支えあう地域づくり

子育て家庭が抱える不安感・孤立感の解消のため、地域間のつながりを大切にできるよう、関係機関・地域・家庭との連携の強化を目指します。

### 基本目標3：子どもと子育て家庭の成長を支える教育・保育の環境づくり

子どもを安心して育てられるよう、教育・保育の質と教育力の向上を図るとともに、子育て家庭を取り巻く環境整備を進め、子どもを事故等から守り、子どもの安全な遊び場の確保、地域の環境美化、防災等に努め、良好な子育て環境づくりを目指します。

また、学校教育の他、課外活動や社会活動への参加を通じて、親子が成長する環境づくりをめざします。

### 基本目標4：子育てと仕事を両立できる環境づくり

父親をはじめ、近隣の親族、住民、事業所が、子育てを支援する意識を持ち、「※ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現を目指します。

※一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、社会的な責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、多様な生き方を選択・実現できる社会

## 一平成 27 年度からの新規事業など一

### 子育てスタート応援事業

育児支援及び子育て家庭の経済的支援を目的に、出生届出のあった家庭に対して、育児健康グッズ・お祝い品等の贈呈やチャイルドシート等育児関連用品の貸出を行います。

### 実費徴収に係る補足給付事業

町立保育所を利用する保護者に対する経済支援を目的に、保護者が支払うべき日用品・文房具や、その他の教育・保育に必要な物品に係る費用を助成します。

### 家庭教育事業

家庭の教育力の向上を目的に、親と子の基本的な人間形成やしつけ等、基本的な生活習慣を身につけさせる学習機会の提供を行います。

### 保育所・小学校連携推進事業

就学前の児童に対し、保育所、小学校との円滑な接続に向けた子ども同士の交流活動や職員の情報交換を行い、教育内容や教育環境の充実を図るとともに、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育を推進します。

### 町立保育所・地域子育て支援センター苦情解決処理事業

利用者が保育サービス等を安心して利用することができるよう、ご意見・ご要望に適切に対応する体制を整えます。

### 一時預かり事業及び開所時間の拡充

びくに保育所で、従来午前8時～午後5時だった開所時間を保護者の就労状況等に応じて、この4月より午前7時45分～午後5時45分まで開所時間の拡充を行います。

また、保育所に入所していないお子さんが、保護者の短期就労や病気・冠婚葬祭等緊急な用事等により一時的に家庭で保育が困難になった場合にびくに保育所で一時的に保育を行う一時預かり事業を実施し、保育機能のより一層の充実を図ります。

※一時預かり保育の利用に係る保育料は町民税の課税状況により1回1,000円～2,100円です。

### 利用者支援事業

「積丹町地域子育て支援センター」及び「住民福祉課」において相互連携を図りながら、子育て家庭に対して子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じ相談・助言を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施します。

### 子ども・子育て支援推進事業

地域住民の多くが子育てへの関心・理解を深めることを目的に、地域全体で子育て家庭を支えることができるよう、情報誌等で子育てに関する意識啓発等を進めます。

また、「町子ども・子育て支援事業計画」の施策が総合的かつ計画的に推進・実施されているかその実施状況を調査・審議するため、「町子ども・子育て審議会」を運営します。

本計画は、家庭・地域・事業者・行政などのそれぞれが子育てや子どもの健全育成に対する責任や役割を認識し、互いに力を合わせながら、様々な施策の実現に取り組んでいきます。

そのため、今後も町の広報誌や子育て情報誌等を活用して、積極的に計画の周知等を行うほか、子育て施策や母子保健活動、相談事業等を通じて、子育て家庭等の意向の把握に努めていきます。

また、計画の進捗状況等を定期的に点検・評価するため、「町子ども・子育て審議会」に報告し、意見の聴きとりと計画への反映を行い、今後の教育・保育サービスの充実に向けた取組を進めていきます。



# 新たな緊急放送のあり方は？ NHK畠山氏による「防災講演会」開催！



畠山 智之 氏

3月24日、NHKの現役アナウンサー・畠山智之氏を講師に迎えた「防災講演会」が開催されました。

町内外の防災関係機関と町民向けの2部に分けて行われた講演は、「東日本大震災を機にNHKの緊急報道はどう変わったか」を演題に行われ、それまでの「緊急時もパニックを起こさせない放送」が、東日本大震災発生時には逆に作用し、大津波が押し寄せているのに危機感が伝わ



▲津波により湾曲した補助標識

らず、多くの命を救えなかったのではないかなという反省から、緊急放送のあり方を再考したことを話題としました。

その後、震災以降に作成された新たな訓練放送が上映され、「東日本大震災を思い出して下さい」といった危険が迫っている表現が盛り込まれ、緊急避難の必要性和切迫感を訴える新たな緊急放送の変化に、来場者は思わず息をのんでいました。

また、同氏は、東北の被災地取材の経験から、大災害時には行政のみ



▲復旧への記録を記したパネルの展示

に頼ることには限界があると話し、「常に自分のことは自分で守るという心構えを持つことが重要」と自助の重要性を参加者へ訴えました。

震災の他にも同氏が報道に携わった事件など、1時間30分の講演は盛会のうちに終了しました。

また、当日は復旧への記録を記したパネルや津波の被害を受けた補助標識や掛け時計、ヘルメット等のミニメントのほか、防災用品の展示が行われ、災害の恐ろしさ、災害への備えの大切さを再認識させてくれました。



▲防災用品の展示

# 入学 おめでとう



美国中学校 12人



美国小学校 12人



余別小学校 1人



目司小学校 1人



## —美国中学校・各小学校で入学式—

4月6日に、美国中学校と美国・日司・余別小学校で入学式が行われ、大きな期待を抱いた計26名の児童・生徒が、上級生や先生に温かく迎えられ、たくさんの祝福を受けながら新しい学校生活をスタートさせました。

※野塚小学校は新入生の入学がありませんでした。

## 役場の新しい顔

新規採用職員4名を紹介します！



びくに保育所  
さきやま ひろよ  
保育士 崎山 浩世  
(奈良県出身 33歳)

びくに保育所に配属になりました崎山です。子どもたちと楽しくあそび、生活し、明日への期待が持てる保育を心がけたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



びくに保育所  
きくや なつみ  
保育士 菊谷 奈津美  
(美国町出身 29歳)

びくに保育所に配属になりました菊谷です。自然豊かな積丹町でのびのびと育つ子どもたちとともに、私自身も様々なことを学んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



すがい ようすけ  
農林水産課 主事 須貝 洋介  
(札幌市出身 27歳)

農林水産課で働かせていただいております須貝です。以前は北見市で警察官として勤務していました。体力と根性で、課をはじめ役場や町の素晴らしい先輩方に鍛えてもらい早く役立てるように頑張ります。



たにもと ゆうき  
住民福祉課 主事補 谷本 裕紀  
(八雲町出身 22歳)

住民福祉課に配属になりました、谷本です。毎日、与えられた仕事にしっかりと励み、早く皆様のお役に立てるように頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。